

第5回琵琶湖保全再生推進協議会幹事会議事概要

1 日時

令和3年9月7日（火）16:00～17:00（WEB開催）

2 出席者

会議資料の出席者名簿のとおり

3 議事概要

(1)開会

(2)幹事長挨拶

環境省水・大気環境局 松澤局長及び国土交通省 望月官房審議官から挨拶。

(3)議事

①琵琶湖の保全及び再生の状況について

資料1および動画により、滋賀県から説明。

②琵琶湖の保全及び再生に関する施策の実施状況について

各資料により、主務省庁および滋賀県から説明。

資料2-1 国土交通省都市局：施策の実施状況の概要

資料2-2 環境省：琵琶湖保全再生等推進費等

資料2-3 国土交通省水管理・国土保全局：野洲川河口部ヨシ帯の再生等

資料2-4 農林水産省：ホンモロコ等の産卵・繁殖の場となるヨシ帯造成

資料2-5 文部科学省：文部科学省における環境教育の取組

資料2-6 滋賀県：水産資源の回復の取組等

③琵琶湖保全再生施策の推進に関する意見交換

(滋賀県)

- ・ 流域連携の取組として、県外では7月1日の「びわ湖の日」に関連して、琵琶湖と関わる様々な活動を発信するため、京都市の琵琶湖疏水記念館における特別展示、京都府の京都環境フェスティバルへの出展、下流府県市の学校での環境学習、関西広域連合でのカワウ対策や京都市と大津市の連携による琵琶湖疏水通船復活の取組を実施した。
- ・ 淀川河川レンジャー事務局が今年度実施したRiver to Lakeという美化活動は、県が実施する「びわ湖を美しくする運動」と連携して、コロナ禍においても、三密を避け、スマートフォンなどのアプリを利用して開催された。各自が拾ったゴミは写真を投稿・集計し、地図上で取組を可視化した。
- ・ 県内では、環境学習船「うみのこ」に下流府県市の学校の方にも、乗船いただく予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の状況により中止となった。
- ・ 琵琶湖淀川流域の一体的な対策は重要であり、今後も皆様と一緒に取組を進めて参りたい。

(京都市)

- ・ 琵琶湖疏水は令和2年4月に竣工130周年を迎え、大津市と共同で日本遺産に申請し、認定された。「びわ湖の日」特別展示を琵琶湖疏水記念館で開催し、啓発等を行った。
- ・ 観光に関する取組では、琵琶湖疏水の通船を平成27年から試行し、平成30年から本格運用を始めている。乗船チケットは販売後すぐに完売するなど好評で、令和3年4月には累計乗船者数が3万人に達した。新型コロナウイルス感染症の影響で運休も行っているが、秋季の運行に向けて対策を進めている。
- ・ 引き続き、関係省庁の皆様や周辺自治体の皆様とともに、連携しながら、水質の保全等に努めたい。

④その他

(マザーレイクゴールズ (MLGs) の推進について)

- ・ 「マザーレイクゴールズ」は、過去10年にわたって多くの方から集めた「びわ湖との約束」などをもとに、「パリ協定」や「SDGs」の仕組みを参考に、ボトムアップで作り上げた、「琵琶湖版のSDGs」である。
- ・ 令和3年7月1日「びわ湖の日」40周年の日にマザーレイクゴールズ賛同者会議を開催し、マザーレイクゴールズアジェンダ、推進体制、事業計画が承認され、マザーレイクゴールズの取組が正式に始動した。
- ・ マザーレイクゴールズでは、琵琶湖を切り口とした持続可能社会への目標として13のゴールを設定しており、滋賀県の枠を超えたゴールもあるので、県外の皆様にもご賛同いただくとありがたい。
- ・ 推進体制として、マザーレイクゴールズ推進委員会を設置し、事務局は、当面県が担うこととしている。推進委員会は、地域での活動促進、団体間をつなぐ役割を担う「世話人」と「学術委員」を任命し、マザーレイクゴールズの取組を推進していく。
- ・ マザーレイクゴールズ推進のための事業として、若い世代の自発的な参画を得て、学生ライターが情報発信するニュースサイトや琵琶湖の魅力や課題について話し合うワークショップなど、新たな事業が始まっており、「MLGs WEB」からご覧頂くことができる。
- ・ 琵琶湖保全再生法第22条にも定められている多様な主体との協働を、マザーレイクゴールズにより進めて参りたいので、ご理解、ご協力、ご賛同をお願いしたい。
- ・ マザーレイクゴールズのコンセプトムービーを大学ベンチャーに作成いただいたので、ご覧いただきたい。(https://mlgs.shiga.jp/)

(資料の公表について)

- ・ 資料1および参考資料2-1を琵琶湖保全再生法第23条に基づく公表資料として、後日国土交通省・環境省のホームページに掲載することについて予告。

(4)閉会

滋賀県江島副知事より挨拶

-以上-